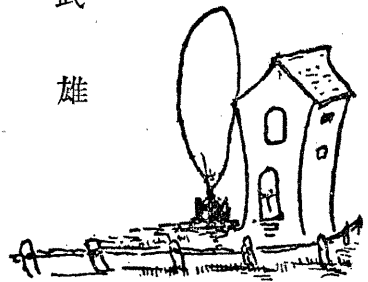


小學校入學前全幼兒保育

—千倉町幼稚園—

千葉縣千倉町立
忽戶小學校附屬幼稚園長

小 原 武 雄



一、日本教育の黎明

日本教育の黎明!! それを力強く感ずる二つの理由がある。その第一は教育の機会均等の宣言である。「すべて国民は法律の定めるところにより、その能力に應じてひとしく教育を受ける権利を有する。」更に「すべて国民はひとしくその能力に應ずる教育を受ける機会を与へられなければならないものであつて、人種・信条・性別・社会的身分・経済的地位又は門地によつて教育上差別されない」と規定された。教育が国民全体に対して、公平にして且均等に行われてこそ、国民は幸福となり、国家社会は發展する。第二は幼稚園が小・中・高・大学と同等の学校として認められたことである。「学校とは小學校・中學校・高等學校・大學・育學校・塾學校・養護

學校及び幼稚園とする」と定められた。幼稚園が意図的にまた計画的に幼児保育に当る一つの學校と見なされたことは、この時代の幼児教育が人間形成の上に重大な意義と必要性があるからであつて、これはたゞ幼児にとつて幸福であるばかりでなく、大人にとつても幸福である。斯くして國民が公平均等なる教育を受ける権利を有し幼稚園が學校と認められたことは、日本に於けるすべての幼児が幼稚園教育を受ける恩恵を得たことを意味するものと考へざるを得ない。そしてこれは正に日本教育の黎明であると云はなければならぬ。

わが千倉町に於ては既に二十余年前、小學校入學前の全幼兒を收容保育する幼稚園が設置され現在に至つてゐる。依つてこゝに千倉町に於ける幼稚園の設立、経過、現況等に就いて述べて参考に供し、これが今後の日本幼児教育のために何か貢献することになれば幸である。

二、千倉町幼稚園の概要

一、千倉町

千倉町は房総半島の南端、太平洋に面し戸数二〇〇三戸・人口一〇二二六人を有し、安房郡第一の町であり、県下は勿論全国に於ても屈指の漁港である。海と港に恵まれ、海産物が豊富で新鮮なる魚貝は四季を通じて絶えない。町民は純真・淡泊・人情に厚い。漁業・農業に従事するもの最も多く、商業・海産加工或いは半農・半漁等も相当多い。由来教育に熱心な町である。

二、幼稚園と小・中学校

全町が忽戸朝夷の二学区に分れており、忽戸小学校・朝夷小学校の二小学校がある。そして両小学校に夫々忽戸小学校附属幼稚園、朝夷小学校附属幼稚園が併置されている。中学校は全町を学区とする千倉中学校がある。両幼稚園は夫々の学区内に於ける小学校入学前幼児を全部收容する一年保育制で幼稚園終了者は全部小学校に入学する。園長は小学校校長兼任である。従来幼稚園は名称の示す如く小学校の附属的性格が多分にあつたのであるが、学校教育法施行以来独立的性格が強くなり、幼稚園本来の姿に立つている。

三、幼稚園の概要

(昭和二五年度)

設立年月日	所 在	學 級 數	就 兒 數	職 員	入 小 學 校 學 生	町 費	父 兄 の 負 担 (毎月)
昭、三、四、二七	併 忽 戸 小 學 校 設	二	一〇〇	園 長 一 教 諭 二 校 醫 一 商 科 醫 一	全 員	一四三、九二一	月 謝 五〇 材 料 費 一〇 P T A 費 一〇 會 費 (三月間)
昭、七、八、一〇	併 朝 夷 小 學 校 設	三	一二二	園 長 一 教 諭 三 校 醫 一 商 科 醫 一	全 員	二〇四、五〇二	月 謝 五〇 材 料 費 二〇 P T A 費 一〇 會 費

三、幼稚園の設置と其後の経過

一、設置

先づ忽戸学区に於て、学区民有識者間に幼児教育の必要が認められ、大正十五年五月試みに忽戸小学校内に私設の幼稚園を設け、小学校入学前児童の一年保育を実施した。但しこれは希望者のみを対象とし神社の社務所を教室にあて、保育には小学校の低学年受持教師が當つた。所が幼稚園終了児童は小学校入学後の成績が良好であつたので、幼稚園設立の要望はいよいよ高まり、昭和三年四月二十七日正式認可の忽戸幼稚園が設置された。これは郡内に於ける幼稚園教育の先鞭を打つたものである。之に不ら朝夷学区にも昭和七年八月十日幼稚園が設置されたので、全町に亘り幼児保育が実施されることになつた。思ふにこの両幼稚園が設立されるに至つた最も重要な原動力となつたのは次の三点であると考へられる。

- 1 幼稚園設置の必要性を一般町民がよく認識したこと。
- 2 幼児教育の実績が父兄に認められたこと。
- 8 一般町民、有識者、町当局の熱意と努力が偉大であつたこと。

尙ほ設立当時本町として幼稚園の必要性は次の通りであつた。

- 1 児童の教育水準を一步でも高めたい。
- 2 家庭では幼児を十分教育する余裕がない。
- 3 幼稚園が出来て幼児が入園すれば漁繁期豊繁期に家業の能率が高まる。
- 4 土地の習慣上、平素子供のお小遣いが相当かゝるが幼稚園が出来れば反つて経済的である。
- 5 幼稚園があれば父兄は子供の管理に手数が省け安心してゐる。(遊び交通事故等)
- 6 以上の利益がある上に、更に専門の教師によつて良い教育が受けられる。

二、設置後の経過

1 適齡全幼児の入園

幼稚園設立当初は希望者のみが入園する状態であつた。そこで当時の学務委員や有識者は戸別訪問をして入園を勧誘すると共に幼児教育の必要を説いた。かゝる状態が三年間続いたがその努力に依つて第四年目には勧誘せずして殆んど入園するようになつた。近年に至り入園幼児は百パーセントとなつてゐる。

2 幼稚園に対する父兄の関心と協力

設立後町民父兄一般の幼稚園に対する関心と理解が漸次向上して来た。そして子供は皆幼稚園に入れるものだとゆう観

念を持つ様になつた。現在に於ては入園が当然のことであり殆んど義務的に心得ている。そしてかゝる觀念は父兄のみでなく町当局も町民の誰もが持つ信念である。「御宅の御子さんは来年幼稚園ですわ」と語り合う。又子供もその氣持で入園

を喜んで待つてゐる。斯様な状態であるから父兄の幼稚園に對する協力振りは極めて熱心であり、保育室・運動場・保育設備等年を追つて充実し之が教師の努力と相俟つて保育内容が向上發展しつゝある。

3 幼稚園就学状況と予算 (忽戸幼稚園)

年次	幼學 兒數	幼入 兒數	比同 率上	小学 校入 學 兒 童 數	同上の幼 稚園終了 者との比	町豫算 總額	園兒一人 當額	備考
昭和 三	—	七七	—	七三	一〇〇%	一、四八六	一九・三一	創立 入園を勧誘した
四	—	九七	—	七六	—	一、七六五	一八・一九	入園を勧誘した
五	—	五九	—	七三	—	一、二四三	二一・〇七	—
六	—	八九	—	七三	—	一、〇二五	一一・五一	勸誘せず殆んど入園 する状態になつた
七	—	七五	—	九六	—	一、〇一一	一三・四八	—
八	—	六九	—	九五	—	一、〇〇八	一四・六一	—
九	—	七一	—	七八	—	一、〇一三	一四・二七	—
一〇	—	七九	—	七五	—	一、〇八五	一三・七三	—
一一	—	六五	—	八七	—	一、〇五六	一六・二五	—
一二	—	七九	—	七九	—	一、〇六六	一三・四九	—
一三	一〇一	九五	九四・〇六	八五	—	一、〇六六	一一・二二	—

4 通園距離

適齡全幼児收容の幼稚園にとつて大きな関係のあるものゝ一つとして幼児通園距離の問題がある。本町に於ける両幼稚園は此の点非常に恵まれている。下記の表を参考までに掲げよう。

〃	二五	九二	一〇〇	一〇〇・〇〇	九二	〃	一四三、九二一	一、四三九・二一	他村より七名〃
〃	二四	九六	一〇一	一〇〇・〇〇	九六	〃	一三四、六二一	一、三三二・八八	他村より五名入園
〃	二三	一〇五	一二七	一〇〇・〇〇	九二	〃	五九、〇三一	四六四・八一	他村より二名入園
〃	二二	一〇七	九六	八九・七二	一〇〇	〃	一一、一八二	一一六・四七	
〃	二一	一三四	一〇二	七六・一二	一〇六	〃	二、五五五	二五・〇四	
〃	二〇	一〇七	八三	七七・五七	九一	〃	一、八八〇	二二・六五	
〃	一九	一一〇	八一	七三・六四	八六	〃	一、四九二	一八・四一	
〃	一八	九八	八三	八四・六九	一〇六	〃	一、四三七	一七・三一	
〃	一七	一〇三	九五	九二・二三	一〇三	〃	一、二〇七	一二・七〇	
〃	一六	一〇七	九四	八七・八五	九四	〃	一、二三四	一三・一二	
〃	一五	九七	七七	七九・三九	八四	〃	一、一二三	一四・五八	
〃	一四	九四	八三	八八・三〇	九二	〃	一、一三二	一三・六四	

昭和二六年度調

計	朝夷幼稚園	忽戸幼稚園	〇・三料					
			内	以	〇・五料	内	以	
二七	一五	一二	二二	一七	二	一	二	一
五三	三一	三三	三三	九	二	二	二	一
五〇	三三	一七	三三	九	二	二	二	一
一一	九	二	九	二	一	二	二	一
二	二	一	二	一	一	二	二	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一

ないが、幼稚園で使用してゐる総坪数は約四百坪である。位置は人家を離れた所に在り、やゝ高台になつてゐるので極めてよい環境である。そして学区の中心的位置を占めてゐる。なほ海岸までは三百米。園地の周囲は田圃や畑であり、裏には眺望と桜で名高い魚見根山がある。

1 校舎と設備

保育室(二〇坪) 二、廊下土間付便所(二間一五間) 一、オルガン二、レコード一、ラジオ一、積木(大小二組)、紙芝居、一五、絵本、火鉢三、保温器二、幼児用机腰掛、整理箱(各幼児一つずつ引出し)、教師用机、椅子、本箱、黒板二、(内一つは子供が自由に書ける)等

2 運動場と遊び道具

スベリ台(コンクリー)一、遊動木一、ブランコ六、鉄棒五、シーソー四、砂場六坪、花園三坪。

二、就園

小学校入学前幼児も全部收容する一年制幼稚園で、前記の通り殆んど義務制である。適齢幼児は全部入園させるが其の他の幼児は一切入園させないことになつてゐる。時に未適齢幼児の入園を学校に申込んで来る者も居るが、之を許可すれば際限が無く、現在の設備と職員組織では困難である。将来

は二年制にしたいと思つてゐる。

次に就園の方法であるが、入園手続きは小学校入学の場合と同様ですべて町役場の仕事である。即ち役場では十二月末日までに入園適齢幼児を調査して台帳を作り、之を学校側に通知する。二月末日までに町長名を以て適齢幼児の父兄に対し入園通知書を交付し、入園月日、入園すべき幼稚園名などを知らせる。父兄は之によつて定められた入園日に、所定の幼稚園に幼児を入園させるようになってゐる。入園通知書の形式は次の如きものである。

教民第 号

昭和二十六年二月十五日

千倉町長 石井 国太郎 殿

殿

昭和二十六年年度幼稚園入園通知

左記者は本年度就園の始期に達した子女につき末尾記載事項了知の上入園の期日に保護者と一緒に本通知を受付係まで御提示願います。

記

子女の氏名	生年	保護者氏名及続柄	現住所	本籍地
昭	月 日		千倉町	

- 1 入園の期日時 昭和二十六年 月 日
- 2 入園する幼稚園名 ○○小学校附属幼稚園

注意事項

- 1 適令者でなければ入園出来ません。
- 2 寄留届の済んでいない方は至急寄留届をして下さい。
- 3 適令者で異動するときは必ず役場に申出下さい。

昭和二十六年度町豫算概要

	總額	園児一人當	職員	給	諸手當	旅費	需用費
忽戸幼稚園	二二〇、五七六	四、一六二	一三七、四〇〇	一四、四七六	九、九〇〇	五八、八〇〇	
朝夷幼稚園	二六九、九〇二	三、〇〇〇	一九二、〇〇〇	一四、〇〇二	一三、二〇〇	五〇、七〇〇	
計	四九〇、四七八	三、四三〇	三二九、四〇〇	二八、四七八	二三、一〇〇	一〇九、五〇〇	

父兄の負担する園費

	年總額	月總額	月謝	材料費	P.T.A.費
忽戸幼稚園	七〇〇圓	六三・三三圓	五〇圓	一〇圓	三ヶ月一〇圓
朝夷幼稚園	八九〇圓	八〇・〇〇圓	五〇圓	二〇圓	一月一〇圓

幼稚園振興は結局費用の問題である。千倉町としては前記

三 幼稚園の経費

町立である両幼稚園の経費は当然町負担になっており、町予算に計上される。そしてこの町費で一切をまかなうのであるが、保護者の直接な負担も多少ある。然しこれは他の幼稚園に比して低額である。昭和二十六年度に於ける園費の概要を示すと次の表の通りである。

の如く相当の負担を担っている。幼稚園が必ずしも義務教育でなくとも実質的に全国各市町村に設置されればよい。それには国費と都道府県費を以て少くとも園費の半額を補助しなければならぬ。然し私の理想とする所は幼児教育の最重要性から幼稚園の義務制と園費の全額国庫負担を強く念願してゐる。

四 幼稚園と小学校との関係

而幼稚園終了者は夫々の学区の小学校に全部入学する。幼稚園小学校は併置されているから幼児は平素から小学校生活にも自然に慣れて、小学校入学後の生活には困らない。また保育課程は小学校教育課程と関連して構成している。尙ほ遠足・運動会・学芸会等の定例的な行事は小学校と同調して行つてゐる。

五 P.T.A.の組織と活動

忽戸学区、朝夷学区夫々に幼稚園小学校を含む忽戸校P.T.A、朝夷校P.T.Aがあつて、その単位組織として幼稚園部会がある。幼稚園部会は部長一名、常任委員数名、委員一〇名の役員があり、会員は父兄全部である。幼稚園P.T.Aは学校P.T.Aとして運営されるが、主として幼稚園部会として独自の活動をしている。

由来千倉町民は子女の教育には熱心であり、学校教育には深い関心と努力を持ち続けて来た。そしてこれが正に本町の歴史的伝統的な美風の一つである。従つてP.T.Aは積極的に活動し、学校環境の整備・教具・運動施設の充実等経済的にまた労力的に奉仕してゐる。

五、日本教育の光明

輝く日本教育の光明！ それは何であろうか。私はそれを端的に云つて、幼稚園教育の振興であり、日本全国の幼児が幼稚園に入ることが出来て教育を受けることであると思う。幼児教育の必要性は説くまでもなく有識者は勿論国民全体がよく知る所であろう。然るが故に國家は國民の總意として公平にして且均等なる教育法則を定め、特に幼稚園を学校と認めたのである。然したゞ法律で規定しただけで、其の實が伴はなければ謂所空念佛に終つてしまふ。所が幼稚園教育の實情乃至は其の運営や組織の現状はどうであろうか。それ等の實態に就いて知る者は案外僅少ではあるまいか。小学校や中学校の教師ですら郡内或いは県内に何処にどんな幼稚園があるか、一体幼稚園はどんな所であるか等について知つてゐる者はどれ程あるだろうか。私はこゝで幼稚園の現状に就いて述べないが、たゞ甚だ遺憾の点が多々ことだけは確かである。

日本幼稚園の振興は正に急務である。一体誰の任務であり誰の責任であろうか。幼稚園振興の道は二つある。その第一は国民全体が幼稚園の設立に力を尽すことである。これが基盤とならなければならぬ。即ち幼稚園の振興は先づ国民全体、そして大人の任務であり責任である。第二は國家地方公共団体等其の局に當る者が直接的な任務と責任に於て幼稚園

教育の爲に大いに力を尽し、努力しなければならぬ。又教職員は率先して幼稚園教育の内容充実に、設立に啓蒙運動に努力すべきである。

日本全幼児に教育の恩恵を与へよ。全国の都市といはず農漁村といはずあまねく幼稚園が設立せられ、全幼児がそこで楽しく教育を受けることが出来るようになつたならば幼児は至大の幸福を得るばかりでなく、日本教育は光明に輝くであらう。

【附記】千倉町の教育における小學校入學前全幼児保育のことを初めて聞いたのは、千葉縣市川市日の出學園幼稚園の土屋眞佐子氏からであつた。謙々非常の關心をもつていることなので、直にその報告を此の論文の筆者小原武雄氏に乞うた。氏の快諾によつて、此の詳細なる報告を得たことを感謝する。小學校入學前全幼児保育ということは、われらの理想であり、幼稚園義務制化への問題に、直接に通ずるものである。後に千葉大學幼稚園主事宮内孝氏から聞くところによれば、氏は疾くに、同縣内の千倉町の此の實際について深き興味を以て注目せられ、その實狀について詳查せられ、文部省にも報告せられてゐるといふことであつた。私は、宮内氏の談によつて、一層現實の關心を深くし、いつかは全日本に實現せられたき全幼児保育の輝かしいさがけとして、これを本誌に紹介することを喜びとし、此のさがけが愈々充實發展して、廣き實現の促進となることを祈つてやまないものである。

倉橋惣三

新著紹介

波多野寛治氏著

『児童心理と児童文化』

東京都文京区大塚坂下町金子書房 三三〇円

山下俊郎氏著

『幼児の家庭教育』

東京都千代田区飯田町東洋書館 二八五円

『幼児の心理的発達』

東京都千代田区神保町巖松堂 一七〇円

同

『児童心理学入門』

東京都中央区銀座大日本圖書株式会社 一六〇円

守屋光雄氏著

『乳幼児心理学入門』

京都市左京区大北門前白井書房 四五〇円

『教育課程基準』（幼稚園）

神戸市教育課程基準作成委員會編
（非売品）

濱田市濱田幼稚園編

『カリキユラムとその実践』

（非売品）

根岸草苗著

『幼児のカリキユラム』

高田市立幼稚園内幼児教育研究会（非売品）

廣島大學三原分校附屬幼稚園編

『幼稚園の教育課程』

（非売品）